

平成27年度 第46回 全九州高等学校バスケットボール春期選手権大会

男子シード決定戦

熊本工業 45

(熊本1位) ●

9	—	20
12	—	14
9	—	7
15	—	15
—	—	—

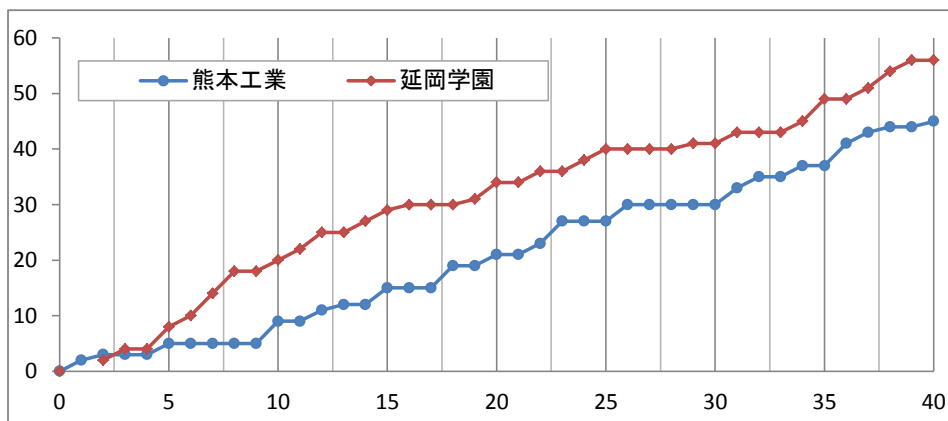
56 延岡学園

○ (宮崎1位)

主審 小川 隆三

副審 和田 敏文

No. 14C4 日時: 2016年2月14日(日) 13:30 会場: 薩摩川内市運動公園体育館C4



熊本工業

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 伊勢崎 匡規 (C)	9	0	4	1	2
5	* 平原 健太	9	0	4	1	1
6	宮中 建太郎	-	-	-	-	-
7	芥川 凌	-	-	-	-	-
8	* 宮本 一輝	2	0	1	0	4
9	富野 雄介	-	-	-	-	-
10	成瀬 友哉	-	-	-	-	-
11	南 朋輝	-	-	-	-	-
12	木下 大輔	-	-	-	-	-
13	* 東川 輝海	4	0	0	4	1
14	* 松井 智哉	19	3	5	0	1
15	米田 年孝	-	-	-	-	-
16	尾下 雅尚	-	-	-	-	-
17	米村 光星	2	0	1	0	1
18	山脇 基暉	-	-	-	-	-
コーチ	岩下 盛大					
合計		45	3	15	6	10

延岡学園

No.	選手氏名	得点	3P	2P	FT	F
4	* 水谷 慎之介	3	0	1	1	1
5	* SYLLA MAMADOU	11	0	4	3	3
6	平尾 剣弥	-	-	-	-	-
7	* 池浦 健太郎	14	0	7	0	3
8	近藤 央	-	-	-	-	-
9	森 紅也	2	0	1	0	0
10	吉田 韻希	-	-	-	-	-
11	馬場口 直人	-	-	-	-	-
12	軸屋 怜音	-	-	-	-	-
13	山本 将史	-	-	-	-	-
14	* 榎田 拓真 (C)	14	0	5	4	2
15	田上 航己	-	-	-	-	-
16	八崎 健之介	0	0	0	0	0
17	* 渡辺 新	12	2	3	0	0
18	甲斐 聖人	-	-	-	-	-
コーチ	川添 裕司					
合計		56	2	21	8	9

*…スターター (C)…キャプテン 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

戦評

第1Q, 互いにハーフコートマンツーマンで試合開始。先手を取ったのは延岡学園。#5MAMADOUのポストプレイと#17渡辺のドライブで得点し開始3分、3対8で延岡学園がリードする。その後も、高さに勝る延岡学園のディフェンスを熊本工業が攻めあぐね、第1Qは9対20で延岡学園がリードする。第2Qも互いにハーフコートマンツーマンで開始。第1Qと同じ展開になり、6分経過15対30延岡学園リードの場面で、熊本工業がタイムアウト。熊本工業はディフェンスを2-3のゾーンディフェンスに変更する。これが功を奏し、延岡学園の得点が止まる。熊本工業はディフェンスリバウンドを取れるようになり、10点差まで詰め寄る。しかし延岡学園#17のブザービーターの3ポイントシュートが決まり21対34で延岡学園がリードし、前半を終了した。

第3Q, 延岡学園はハーフコートマンツーマン。熊本工業は2-3のゾーンディフェンスで開始。インサイドを固める熊本工業のゾーンディフェンスに対し、延岡学園はアウトサイドシュートが決まらない。しかし、ディフェンスをしっかりと頑張り、守り合いの展開になる。このクォーターで熊本工業が少し差を詰める。30対41、延岡学園リードで3Qが終了した。

第4Q開始早々、熊本工業#14松井の3ポイントシュートで点差が8点差になる。その後、熊本工業#5平原がジャンプシュートを決めれば、延岡学園#14榎田がファイトあるプレイでリング下のシュートをねじ込み、一進一退の攻防が続く。ラスト3分まで8点差の攻防が続いたが、延岡学園#7池浦の連続得点で再び10点差に差が広がる。熊本工業は最後までディフェンスのプレッシャーをかけ、逆転を狙うがタイムアップ。45対56で延岡学園が勝利した。

記事者	堀 省吾 (所属) 鹿児島県バスケットボール協会
-----	--------------------------